

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(男性, 20歳代及び女性, 30歳代)あり, 年間累積報告数は10例となっています。  
生食用食肉(牛肉)の規格基準が, 食品衛生法に基づいて平成23年10月に施行され, 肉塊の表面から深さ1cm以上の部分までを60℃で2分間以上加熱後, トリミングすること等により微生物汚染を完全に除去する方法が提示されました。しかし, レバー(肝臓)では内部からも腸管出血性大腸菌が検出されることが報告され, 本年7月から, 牛のレバーを生食用として販売・提供することが禁止されました。  
詳細は下記の厚生労働省のホームページを御参照ください。  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/kinkyu/2r9852000001bbdz.html>  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syuuhisya/110720/](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syuuhisya/110720/)
- 麻しん(修飾麻しん(検査診断例))の報告が第24週(6月11日～6月17日)に1例(女児, 10歳未満)あり, 本年初めての報告となっています。  
国立感染症研究所のホームページに麻しんの対策やガイドラインとして「医師による麻しん届け出ガイドライン 第三版」, 「医療機関での麻しん対応ガイドライン 第三版」等が掲載されていますので, 御参照ください。  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/guidelines.html>
- ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.88(36例)で, 先週(0.41)の約2倍となっています。年齢階級別では, 1歳が17例(47.2%)で最も多く, 1歳から3歳までで83.3%を占めています。毎年7月から8月に流行しますので, 今後の動向に御注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.20(90例)で, 先週(1.46)の約1.5倍となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類: 結核 10例(肺結核 3例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 5例)うち喀痰塗抹陽性 2例  
【1月以降の累積報告数 223例(肺結核 90例, その他結核 47例, 潜在性結核感染者 86例)うち喀痰塗抹陽性 50例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 10例】
- 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 8例】
- 五類: アメーバ赤痢 腸管アメーバ症 1例・腸管外アメーバ症 1例【1月以降の累積報告数8例】
- 五類: 麻しん(修飾麻しん(検査診断例)) 1例(第24週追加分)【1月以降の累積報告数 1例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.83	198
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.20	90
	③ ヘルパンギーナ	0.88	36
	④ 水痘	0.78	32
	⑤ 突発性発しん	0.44	18
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

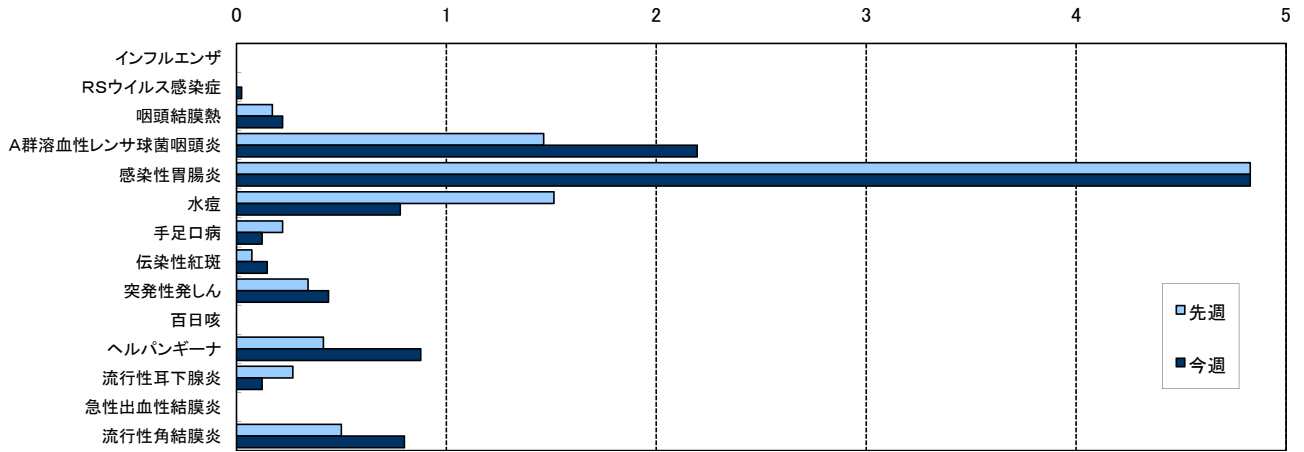
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

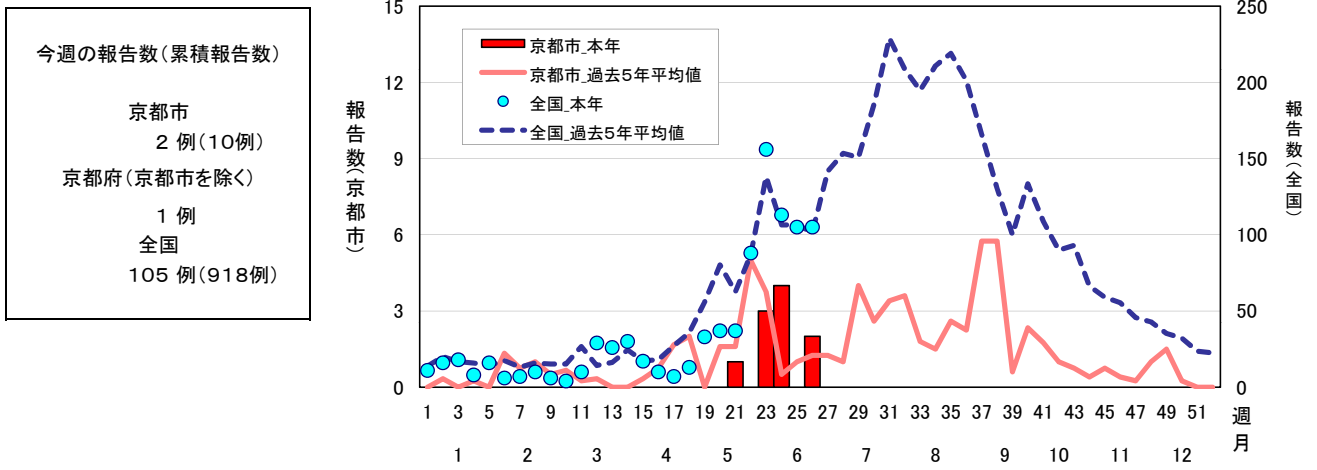
(注) 京都市のデータは, 平成24年7月5日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第26週)と先週(第25週)の定点当たり報告数の比較

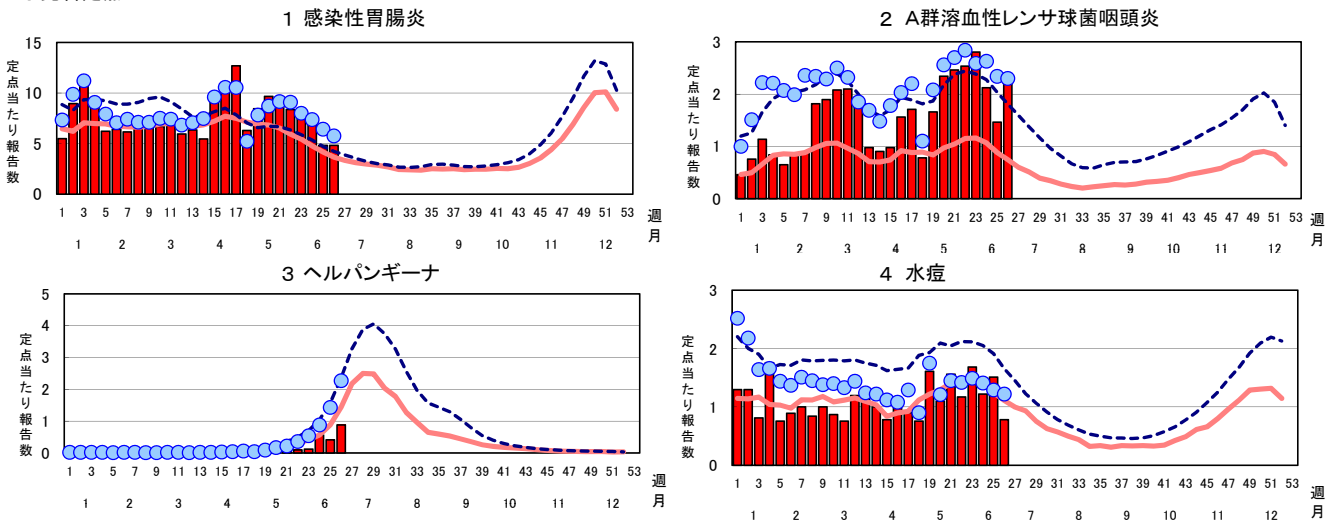


## 2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

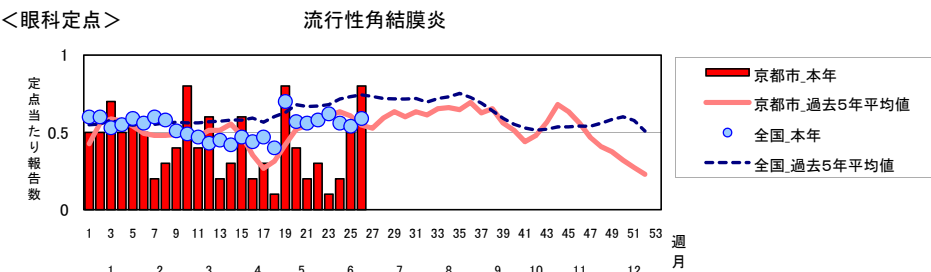


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



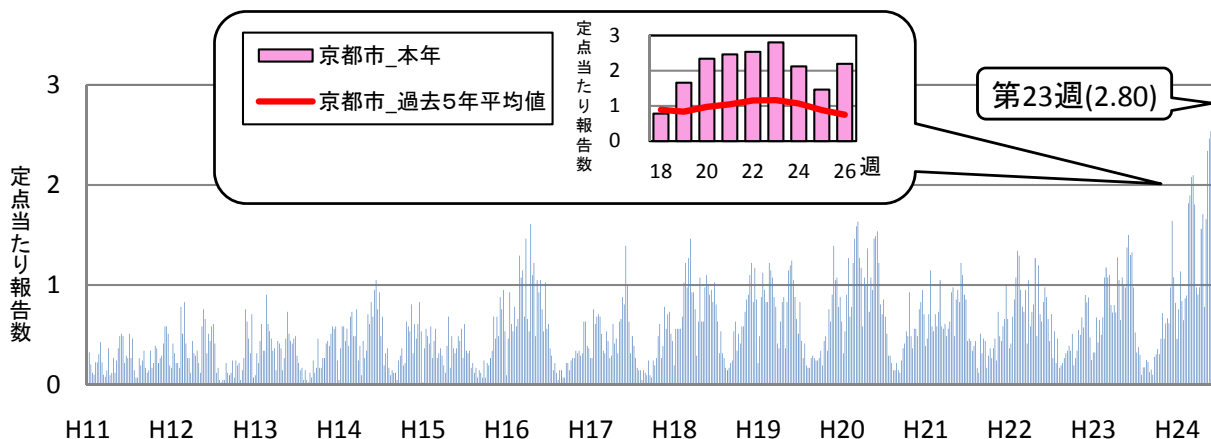
## 第26週(6月25日～7月1日)トピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.20(90例)で、先週(1.46)の約1.5倍となっています。第23週(6月4日～6月10日)に週定点当たり報告数が2.80となり、感染症法の施行された平成11年以降で最も多くなっています。また、第26週までの累積で見ても定点当たり報告数は、平成11年以降で最も多くなっています。

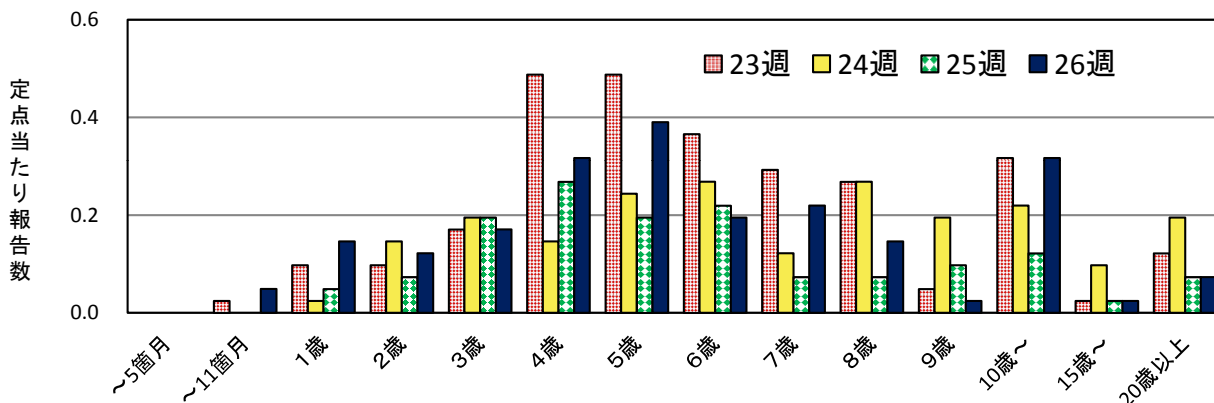
年齢階級別にみると、5歳が16例(17.8%)と最も多く、次いで4歳が13例(14.4%)で、4歳～7歳で51.1%を占めています。

行政区別定点当たり報告数では、上京区と西京区が各4.00と最も多く、次いで右京区が3.40、南区が3.33、左京区が3.25となっています。

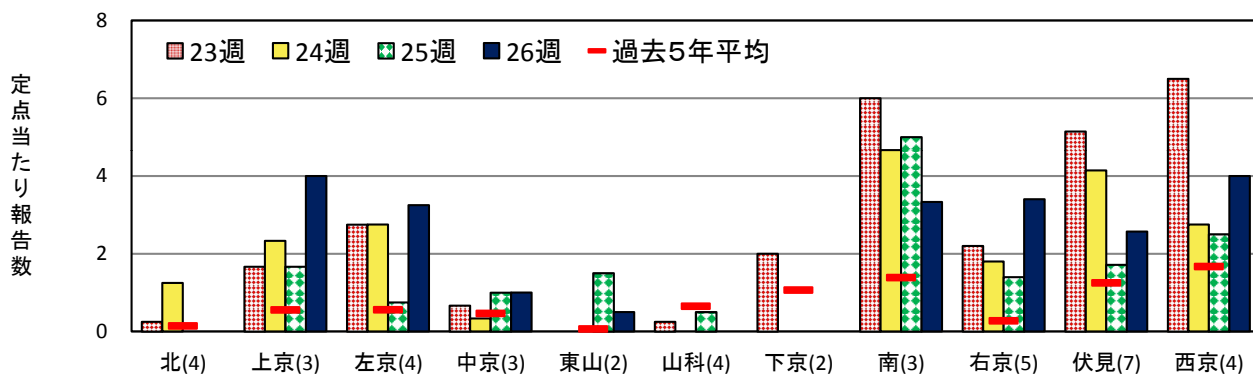
定点当たり報告数の推移



年齢階級別報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



\* ( )内は各区の定点医療機関数